
令和5年度 特許情報に係る商用データベースの 機能水準に関する調査

令和6年3月

目次

- 1. 調査概要 P. 2
- 2. 調査対象の商用データベース P. 3
- 3. 調査対象の高度な機能 P. 5
- 4. 商用データベースの高度な機能 P. 7
- 5. 高度な機能の現状と今後 P. 19

1. 調査概要

特許情報サービス「特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)」等で、今後提供すべきサービスや機能を検討する際の基礎資料とすることを目的に、民間事業者が提供する特許情報サービスについて、以下の調査を行なった。

□ 民間事業者が提供する商用データベースの機能の調査

- 選定した36の商用データベースについて、法域(特許・実用新案、意匠、商標)ごとに提供している機能の有無を調査
- 商用データベースの概要、収録データ、機能一覧、高度な機能及び導入コストについて調査
- 商用データベース提供事業者10者に対し、ヒアリングを実施

□ 民間事業者が提供する商用データベースの高度な機能の調査

- 高度な機能と考えられるもの(例えば、特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)にて提供している機能よりも高度な機能)について調査

なお、本資料は、「令和5年度 特許情報に係る商用データベースの機能水準に関する調査」の調査結果の抜粋である。

2. 調査対象の商用データベース

特許庁ホームページに掲載されている「1. インターネット・オンライン情報提供サービス」及び日本特許情報機構のJapio YEAR BOOK 2022を参考に、以下の36の商用データベースを選定した。

No.	サービス名	事業者名	法域	ヒアリング
1	AcclaimIP	Anaqua	特実	—
2	Amplified	amplified ai	特実	—
3	Biz Cruncher	パテント・リザルト	特実	—
4	Brand Mark Search	日本パテントデータサービス	商標	—
5	CAS Scientific Patent Explorer	CAS(化学情報協会)	特実	—
6	CAS STNext	CAS(化学情報協会)	特実	—
7	CKS Web	中央光学出版	特実、意匠	—
8	Cotobox	cotobox	商標	—
9	CyberPatent Desk	サイバーパテント	特実、意匠、商標	○
10	Derwent Innovation	Clarivate	特実	○
11	Design Scope	知識産権出版社有限責任公司(プロパティ)	意匠	—
12	Design Search	InQuartik	意匠	—
13	Dialog	Dialog(ジー・サーチ)	特実	—
14	HYPAT-i2	発明通信社	特実、意匠、商標	—
15	incoPat	BEIJING INCOPAT(Clarivate)	特実	○
16	Japio 世界特許情報全文検索サービス	日本特許情報機構	特実	—

2. 調査対象の商用データベース

No.	サービス名	事業者名	法域	ヒアリング
17	JP-NET/NewCSS	日本パテントデータサービス	特実、意匠、商標	—
18	Kangxin IP Platform	Kangxin Partners(プロパティ)	商標	—
19	Markify	Markify(サイバーパテント)	商標	—
20	ODI-GAZETTE	オーディス	商標、意匠	—
21	ODIS-NET	オーディス	特実	—
22	Orbit Intelligence	Questel	特実、意匠	○
23	PatBase	RWSグループ	特実	
24	Patentfield	Patentfield	特実、意匠	○
25	PatentSQUARE	パナソニック ソリューションテクノロジー	特実、意匠	○
26	PatSnap Analytics	PatSnap(中央光学出版)	特実、意匠	○
27	Quid	Quid(伊藤忠テクノソリューションズ)	特実	—
28	SAEGIS	Clarivate	意匠、商標	—
29	Shareresearch	日立製作所	特実、意匠	○
30	TM go365	Clarivate	意匠、商標	—
31	Tokkyo.Ai	Tokkyo.Ai(プロパティ)	特実、(意匠、商標)	○
32	Toreru	Toreru	商標	—
33	ULTRA Patent	ウィズドメイン	特実	—
34	WebPat	InnoVue(プロパティ)	特実	—
35	WIPS-Global	WIPS(プロパティ)	特実	—
36	XLSCOUT	XLSCOUT	特実	○

3. 調査対象の高度な機能 1/2

調査対象の高度な機能(例えば、特許情報プラットフォーム(J-PlatPat)にて提供している機能よりも高度な機能)として、以下の12の機能を選定。

No.	種別	機能名	法域	機能概要
1	検索	類似検索・概念検索	特実 意匠	公報番号や明細書の文章、あるいはキーワード関連語や技術分類等を入力して、検索対象と似ているもの（関連度の高い特許・実用新案・意匠）を抽出する機能
2	検索	類似画像検索	意匠 商標	形状・模様・色彩、あるいは登録番号等、特に対象の画像を入力して、検索対象と似ているもの（関連度の高い意匠・商標）を抽出する機能
3	分析	特許情報分析 (IPランドスケープ等)	特実	特許情報の分析方法として、ランキング分析、課題・解決分析、引用・被引用分析、相関関係分析等、その動向等をビジュアル化する機能
4	閲覧表示	独自の Patent ファミリー表示	特実	優先権によって直接、間接的に結び付けられた2カ国以上への特許出願の束である Patent ファミリーを、独自の基準で束ねて表示する機能
5	分析	引用ネットワークの可視化	特実	関連特許・実用新案の引用・被引用関係のつながりをネットワーク形式で見える化する機能

3. 調査対象の高度な機能 2/2

No.	種別	機能名	法域	機能概要
6	分析	価値評価の提供	特実	特許・実用新案の知的財産としての価値、すなわち排他権に伴う事業価値や経済的価値等を、定性的、あるいは定量的に評価して、その結果を提供する機能
7	その他	出願人名等の名寄せ	特実 意匠 商標	特許・実用新案・意匠・商標を出願した団体／個人の名前である出願人名が同じ団体／個人であるのに、何らかの理由で出願時期により記載が異なっていたものを、同じ記載にまとめる機能
8	検索	辞書	特実	特許・実用新案に記載された、キーワードとその類義語（同義語・上位語・下位語）等を辞書として持ち、望む検索に適切なワードの候補（選択肢）を表示する機能
9	分析	マップ表示	特実 意匠 商標	特許情報を目的に応じて整理・分析・加工（ビジュアル化）し、マップ表示する機能
10	その他	チャットボット	特実 商標	AI技術等を活用した自動会話プログラム（AIロボット）により、AIロボットとの自然文による会話を通じて必要とする情報を得る機能
11	その他	特許文書自動作成	特実	AI技術により、特許・実用新案の明細書等を自動的に生成して出力する機能
12	その他	特許性判断	特実	特許性の有無を判断する機能

4-1. 類似検索・概念検索

- 類似検索・概念検索機能は、公報番号や明細書の文章、あるいはキーワード関連語や技術分類等を入力して、検索対象と似ているもの(関連度の高い特実・意匠)を抽出する機能
- 話し言葉や明細書の要約文をそのまま入力して検索できる商用DBもある
- 公報番号の入力で、似ているものを抽出する機能を持つ商用DBもある

利用用途(ユーザーメリット)

- 類似した技術を保持する潜在的な権利者、関連企業や競合企業の特定に利用
- ⇒ 製品開発・実施・権利化が阻害される可能性の検討材料に利用
- 自然文で検索できることから、検索式の構築等の経験が浅いユーザーでも、求める技術内容に近い特許公報の検索が可能
- 新しい分野の検索時等、有用な検索キーワードが分からない場合に有効
- 大まかな対象技術範囲での特許収集を簡易に行える

CyberPatent Deskの概念検索の例



入力した文章や指定した対象に内容が近い順に検索結果が表示

類似度の高い文献からチェック可能

出典：サイバーパテント

4-2. 類似画像検索

- 形状・模様・色彩、あるいは登録番号等、特に対象の画像を入力して、検索対象と似ているもの(関連度の高い意匠・商標)を抽出する機能
- 類似の基準となるのは、画像(イメージ)で、AI技術の活用により、検索対象が入力情報と似ているか否かを判定
- 複数の画像を用いての検索、書誌情報等の組み合わせでの検索、画像の類似度での絞り込み検索など、付加価値を付けているものがある
- 検索精度は、Graphic Image Park※よりも優れているものが多数ある

※工業所有権情報・研修館が提供しているサービス

利用用途(ユーザーメリット)

- 類似した技術を保持する潜在的な権利者、関連企業や競合企業の特定に利用
- ⇒ 製品開発・実施・権利化が阻害される可能性の検討材料に利用
- 画像をアップロードすれば検索できることから、検索式の構築等の経験が浅いユーザーでも、求める技術内容に近い公報の検索が可能
- 大まかな対象技術範囲での意匠・商標収集を簡易に行える

JP-NET/NewCSSの類似画像検索の例



出典：日本パテントデータサービス

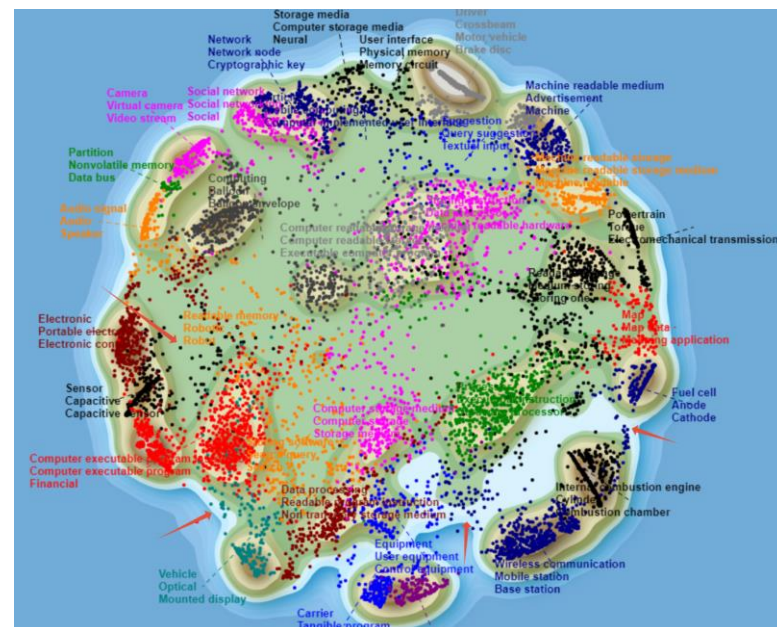
4-3. 特許情報分析(IPランドスケープ等)

- 特許情報分析とは、ランキング分析、課題・解決分析、引用・被引用分析、相関関係分析等、その動向等をビジュアル化する機能
- IPランドスケープとは、自社、競合他社、市場の研究開発、経営戦略等の動向及び個別特許等の技術情報を含み、自社の市場ポジションについて現状の俯瞰・将来の展望等を示すもの

利用用途(ユーザーメリット)

- 権利者スコアマップにより、特許の注目度から見た権利者ごとの競争力や競合状況が把握可能
- 課題・解決マトリクスにより、業界全体と企業単位の両面からの調査が可能で、技術開発の傾向を詳細に分析可能
- 製品分類を利用することで、発明の対象から技術開発の傾向が分かる
- 発明者分析により、注目度の高い発明者を把握し、競合企業の動向や、注目の技術分野におけるキーマンのトレンドをとらえる
- 類似特許マップにより、より類似度の高い事例から、対策・戦略を検討することが可能

Orbit Intelligenceのランドスケープマップの表示例



出典：Questel

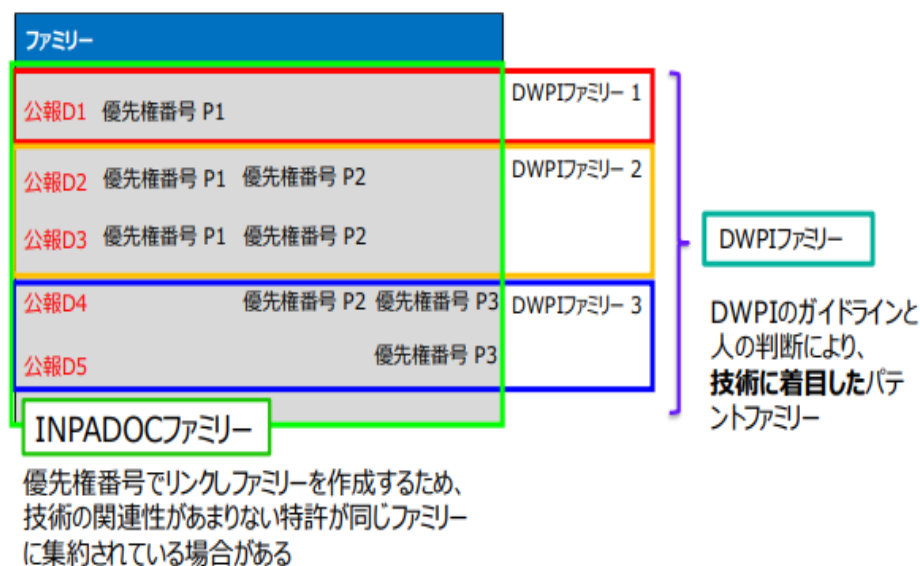
4-4. 独自のパテントファミリー表示

- 優先権などによって直接、間接的に結び付けられた2カ国以上への特許出願の束であるパテントファミリーを、独自の基準で束ねて表示する機能
- パテントファミリー内の特許文献やそれぞれの親子関係、直接、間接等の関係性を一目で把握できる表示機能をもつものもある
- パテントファミリー単位から個々の出願や請求項等の詳細情報にアクセスできる機能などができるものもある

利用用途(ユーザーメリット)

- 同一ファミリーに属する特許情報の検索、表示、閲覧が容易
- 個別の書誌データのエラーに惑わされることなく、発明の新規性を簡単かつ正確に確認可能
- 統計、分析を行う際に、同じパテントファミリーを一回としてカウントして、より正確な結果が得られるもある
- PCT、EPC、マドプロ、パリ優先権、国内優先権、分割出願、継続出願などをファミリー化して、確認・管理が可能なものもある

Derwent™ InnovationのDWPIファミリー構造



出典：Clarivate

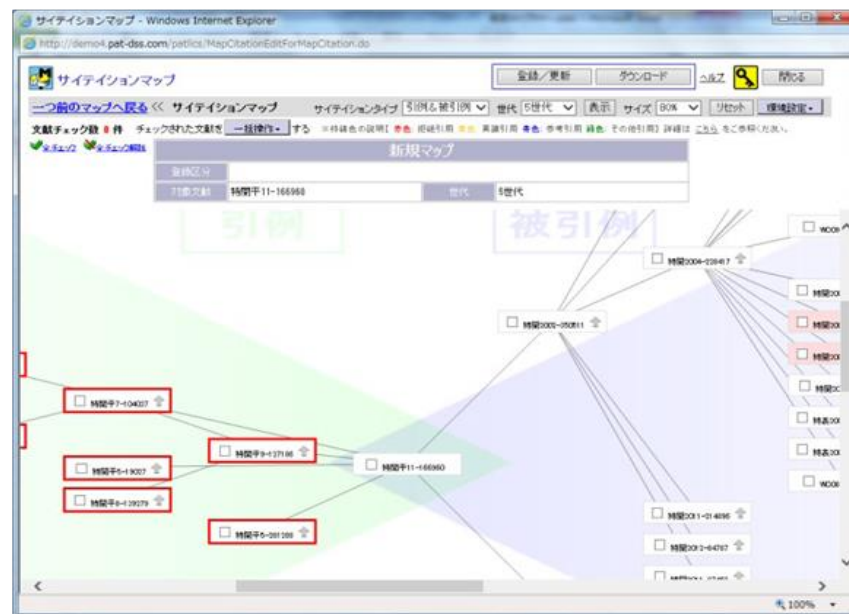
4-5. 引用ネットワークの可視化

- 関連特許・実用新案の引用・被引用関係の繋がりをネットワーク形式で見える化する機能
- 技術分野でクラスタリングした俯瞰的な表示、出願人により色分けした表示など、商用データベースにより、引用ネットワークの提示方法は様々
- 検索機能と連携させ、可視化された引用ネットワークから検索できるものもある

PatentSQUAREのサイテーションマップの表示例

利用用途(ユーザーメリット)

- ユーザーが特定の技術の開発プロセスを追跡し、企業の中核技術の保護戦略と特許レイアウトを発見するのに役立つ
- 特許文献における複雑な引用関係を相関図で表すことで、その特許が注目度や価値を把握できる
- 侵害リスクの分析も判別しやすくなる



出典：シー・サーチ

4-6. 価値評価の提供

- 特許・実用新案の知的財産としての価値、すなわち排他権に伴う事業価値や経済的価値等を、定性的、あるいは定量的に評価して、その結果を提供する機能
- 独自ないし他の企業・組織により定義された価値指標に基づき評価
- 集計結果をスコアや順位付け、図表等で出力、表示

利用用途(ユーザーメリット)

- 自社製品の保護や競合他社に対する優位性確保に重大な影響をおよぼす、知的財産の把握
- 特許調査(先行技術調査、FTO調査など)での重要特許レビューの優先順位付けに役立つ
- グローバルな特許調査など膨大な特許情報を、客観性を担保しながら効率的な評価作業が可能
- 特許価値を数値や図表で表すことで、経営層、上層部、事業部やR&D部門等との報告・情報共有がしやすい
- 自社の知財ポジションの推測、把握などに利用
- 技術、知的財産のランドスケープやライフサイクルを素早く閲覧、分析可能

PatSnap Analyteicsの特許評価ツールによる 価値評価の例



出典：中央光学出版

4-7. 出願人名等の名寄せ

- 出願した団体／個人の名前である出願人名が同じ団体／個人であるのに、何らかの理由で記載が異なっていたものを、同じ記載にまとめる機能
- 出願時の名称誤記や表記ゆれ、国外出願人名の翻訳の差異、企業の合併、統合、社名変更等に伴う出願人名の遷移など
- ある出願人企業とその関連企業等をグループ化する機能をもつものもある

利用用途(ユーザーメリット)

- 誤記や表記ゆれなどの補正で、出願人の出願動向等を高い精度で分析可能
- 手作業で名寄せを行う手間を省け、調査、分析の効率が上がる
- 出願人名等のグループ会社情報をカスタマイズして、分析グラフ等の図表作成できるものもある
- 出願人名等の翻訳データがある商用データベースでは、国外公報の検索が容易
- 出願人等の合併、統合や社名変更などを追跡でき、分析対象企業等の動向を把握できる

incoPatの出願人ツール使用時の画面表示例

incoPat 多彩な補助ツール

出願人ツール—出願人の別称と子会社名等を調査

英語・中国語対応



Clarivate

出典：Clarivate

4-8. 辞書

- 特許・実用新案に記載された、キーワードとその類義語等を辞書として持ち、望む検索に適切なワードの候補を表示できる機能
- 類義語の場合、AIを活用して類義語機能を実現するものや、ベンダが情報収集したデータベースを使うものがある

利用用途(ユーザーメリット)

- ユーザーの不慣れな分野の類義語を調べる際に有用
- 検索キーワードが思い浮かばない時や検索式の見直しなどに有効
- 外国特許の調査で不案内な海外の出願人を特定でき、ユーザーの言語の壁も軽減できる
- 類義語を探す時に異なる技術分野の類義語が混じって、検索結果にノイズが増えてしまうことがあるが、本機能の活用によりこれを回避でき、作業の効率化に資する

PatBaseの連想語サジェスト機能の画面例

出典：サイバーパテント

4-9. マップ表示

- 特許情報を分析し、その動向等をビジュアル化する機能
 - ランキング分析: 出願人・発明者・国・技術分野など、主要項目について件数をもとにランキングで表示
 - 課題・解決分析: 縦軸・横軸にそれぞれ課題・解決手段の各項目を表示し、交差する点にその件数を表示
 - 引用・被引用分析: 他社の出願について、その引用・被引用件数を表示
 - 相関関係分析: 特定の業界での共同出願の件数をマトリクス状に表示

利用用途(ユーザーメリット)

- 分析結果を等高線マップで表示するものでは、全体像を様々な観点から俯瞰的に見れる
- 膨大なテキスト情報の視覚化により、即座に新しい気付きや発見へと導くことが可能
- 出願人、出願年度、特許分類を設定して、特許情報を可視化することで、特許の分布、動向、競争状況などを視覚的に理解しやすくなる
- 世界地図上にマップ表示する機能を用いると、ワールドワイドな観点から分析結果を一瞥で、素早く確認できる

ULTRA Patentの統計チャートの例



出典：ウィズドメイン

4-10. チャットボット

- AI技術等を活用した自動会話プログラム(AIロボット)により、AIロボットとの自然文による会話を通じて必要とする情報を得る機能
- チャットボットには、ヘルプ機能として提供されているものや、AIロボットとの会話形式で類似検索・概念検索や特許自動生成機などを行うものもある

利用用途(ユーザーメリット)

- 従来のキーワード検索のように、完全一致でヒットする複数のキーワードを並列して与えたり、複雑な検索式を検討する必要がなく、自然文による検索が可能
- 検索機能を熟知していないユーザーであっても、チャットボットの指示に従って入力することで検索が可能

XLSCOUTのNOVELTY CHECKER画面例

Novelty Checker
ユーザー監視の先行技術検索アプリケーション

課題、発明のタイトル、発明の内容を入力します。日本語での入力も可能です。

解決しようとする課題を教えてください *最小2文字、最大255文字まで

cleaning skyscraper windows

従来分野と発明のタイトルを入力してください *最小2文字、最大255文字まで

Drone cleaning skyscraper windows

発明内容(要約) *最小2文字、最大255文字まで

Drones that clean the windows of skyscrapers move up and down with propellers. After spraying water, wipe off automatically with a cloth.

課題：高層ビルの窓の掃除
cleaning skyscraper windows

発明のタイトル：高層ビルの窓を掃除するドローン
Drone cleaning skyscraper windows

発明の内容：
高層ビルの窓を掃除するドローンは、プロペラで上下に移動します。水を吹き付けた後、布で自動的に拭き取ります。
Drones that clean the windows of skyscrapers move up and down with propellers.
After spraying water, wipe off automatically with a cloth.

①すぐに結果を見ることができます。
②パラメーターを設定しながら解析することもできます。
③履歴によって、パラメーターを変更しながら解析することができます。

検索結果へ進む > 検索も作成 >

出典：XLSCOUT

4-11. 特許文書自動生成

- AI技術により、特許・実用新案の明細書等を自動的に生成して出力する機能
- 先進の生成AI技術、あるいはこれに相当する独自技術により実現
- 発明の概要を入力すると、明細書のドラフトを作成するが、現状では完全な明細書を作成することはできない

Tokkyo.Aiの特許文書自動生成の画面例

利用用途(ユーザーメリット)

- 調査が多くて人手が足りない場合でも、誰でも特許申請をスムーズに進めることが可能
- 特許に対する特殊な知識やスキルは不要で、経験の浅いユーザーでも課題やアイデアを入力するだけで、明細書を自動的に作成できる
- AI技術により、膨大なデータベースから隠れたインサイトを抽出できる
- 現状、完全な明細書作成はできないが、弁理士への相談の文案や知財部門と開発部門のコミュニケーション等に活用するのには有効

発明の名称 技術分野 背景技術 発明が解決しようとする課題 産業上の利用可能性 請求項 要約

【課題】 弁理士は、自身の専門分野を一般に便利に方法で広げ、顧客は、自分が抱えている特許の出願書類の作成や発明資料と適切な弁理士の提供を受ける弁理士マッチングサービス、弁理士マッチングサービスの提供方法、弁理士マッチングサービスの顧客端末アプリおよび弁理士端末アプリを提供することを目的とする。【解決手段】 弁理士マッチングサービスは、顧客端末から入力される特許の出願書類の作成や発明資料を受け、発明資料を保存し、受領された特許の出願書類の作成に基づいて、これに対応する事件を1つ以上の分野に分類し、該分類された分野を抽出可能な数値化された数値の弁理士の少なくとも一人以上を前記事件の弁理士として選択し、該弁理士の弁理士端末に保存された前記発明資料を送信し、前記弁理士端末から受領意図の情報を受け付けることにより、少なくとも一人の弁理士を再選択し、顧客とマッチングさせる。

入力文字数 408/2000

生成言語: 日本語 英語 残り使用回数 190/200 内容再生成

【背景技術】 弁理士は、自身の専門分野を一般に、特許の出願書類に関する情報や発明資料と適切な弁理士の提供するための方法やシステムの開発がある。特に、個々の顧客が必要とする専門知識を持つ弁理士を見つけ、顧客が安心してサービスを受けることができる弁理士マッチングサービスの開発が求められている。

従来の弁理士マッチングサービスは、単に特許出願書類の情報を入力して弁理士を探索するための機能に留まっているに過ぎず、顧客が適切な弁理士を探索するには限定的な情報しか提供されていなかった。また、特許出願書類の情報を提供している顧客側のシステムも独立しており、特許出願書類と対応する発明資料をセットで保存することや、弁理士の推薦などの機能は提供されていなかった。

そのため、本発明は、上記の問題点を解決するために開発されたものであり、顧客から入力される特許出願書類の情報とそれに対応する発明資料を受け付け、保存することができる弁理士マッチングサービスや弁理士マッチングサービスの提供方法、顧客端末アプリおよび弁理士端末アプリに関する技術を開示している。

本発明によれば、弁理士マッチングサービスは、顧客から入力される特許出願書類の情報とそれに対応する発明資料を受け、保存することができる。さらに、受領された情報に基づいて、複数の分野に分類された特許の弁理士のうち、特定の事件に選んだ弁理士を決定することが可能である。弁理士マッチングサービスにより、決定された弁理士の端末に保存された発明資料を送信し、弁理士側からの受領意図の情報を受け付けることにより、最終的な弁理士と顧客のマッチングが実現される。

以上が、本発明の背景技術に関する一般的な説明である。以下では、本発明の詳細な技術構成や機能について、さらに具体的に説明する。

2023-08-28 16:44:23生成

修正する

出典：Tokyo. Ai

4-12. 特許性判断

- 特許性の有無を判断する機能
- 類似検索機能の検索結果から潜在的な権利者、関連企業や競合企業を特定し、製品開発・実施・権利化を阻害する可能性を検討できる

利用用途(ユーザーメリット)

- 類似した特許の検索結果を使って潜在的な権利者、関連企業や競合企業を特定し、製品開発・実施・権利化を阻害する可能性を検討できる。
 - 手軽に特許調査を行い、特許登録の可能性を評価することが可能
- ⇒ 特許に関する専門的な知識や手続きに詳しくないユーザーでも、自身のアイデアが特許として成立する可能性を把握できる

Derwent InnovationのSmart Searchの表示例

The screenshot displays the Derwent Innovation Smart Search interface. At the top, there's a search bar with a magnifying glass icon and a dropdown menu for search criteria. Below the search bar, there's a section titled 'スマートサーチ実行時にDerwent Innovationが内部で行っている操作' (Operations performed internally by Derwent Innovation during Smart Search execution). This section includes a 'スマートサーチの適用方法例' (Example of Smart Search application) and a '未知の技術分野について' (Regarding unknown technical fields) section. The main part of the interface shows search results for 'secondary battery' and 'positive electrode active materials'. It includes a table with columns for IPC class, DWP title, DWP classification, and DWP manual code. Below the table, there's a section titled '重みづけの例' (Example of weighting) which lists the following criteria: A: DWP title, B: DWP classification, C: DWP manual code, and D: DWP title. The interface also shows a '検索結果' (Search results) section with a table of results and a '関連性' (Relevance) section with a bar chart showing the distribution of results across different categories.

出典：Clarivate

5. 高度な機能の現状と今後 1/3

類似検索・概念検索などの検索機能

- 特許や実用新案などを簡便に検索することができることから、調査した殆どの商用データベースで提供されている
- 精度等の向上については、多くの事業者が取り組んでいるが、アルゴリズム等検索機能の強化を図っている事業者と、検索の元となる書誌情報の前処理などにより精度向上を行っている事業者がある

類似画像検索機能

- 商用データベースでは、複数の画像を用いての検索、書誌情報等の組み合わせでの検索、画像の類似度での絞り込み検索などの付加価値を提供
- 意匠検索や商標検索だけでなく、実用新案や特許の明細書に記載されている図を検索して類似特許を検索する機能を提供する事業者も出始めている

特許情報分析機能(IPランドスケープ・マップ表示)

- 調査した多くの商用データベースで、この機能を提供しており、特許情報分析機能をオプションとしたり、別のアプリケーションやサービスで提供したりと、特許検索に対しての付加価値機能として提供している事業者もいる
- 経営や事業戦略策定用のマップ作製だけでなく、検索機能と連携させて、マップから直接特許等の絞り込み検索を行う機能を持つデータベースもある

5. 高度な機能の現状と今後 2/3

引用ネットワークの可視化機能

- 調査した半数程度の商用データベースで提供されている
- 引用・被引用情報をツリー形式でつないだネットワーク図の、キーワードなどの情報を基に技術分野でクラスタリングした俯瞰図、出願人により色分け表示など、商用データベースにより、引用ネットワークの提示方法は様々

価値評価の提供機能

- 価値評価は、特許の抵触性調査などでの重要特許の把握だけでなく、M&Aや業務提携などの調査の際の相手企業の保有特許の資産価値等を把握など、経営サイドでも有効
- 価値評価を単なる指数(数値)でなく、対象とする特許の市場規模を鑑みてUSドルで表すものや、特許を利用している製品を推定して価値判断する機能を提供している商用データベースもある

独自のパテントファミリー表示機能

- 欧州特許庁が提供している拡張ファミリーの補正や特許の追加のみを行ったパテントファミリーを提供している商用データベースが多い
- シンプルファミリーでは狭すぎ、拡張ファミリーでは広すぎるため、優先権情報以外の情報を組み合わせて、独自のパテントファミリーを提供している商用データベースがある
- 特許の書誌情報の中身を調査員が読み込んで、技術的に共通するものでファミリー化した独自のパテントファミリーを提供している商用データベースもある

5. 高度な機能の現状と今後 3/3

出願人名等の名寄せ機能

- 独自の名寄せ情報は持たず、代わりに企業リストを提示して、ユーザーが選択して検索を行う商用データベースが多い
- 一方で、出願人名の名寄せを独自に行った情報を提供しているものや、グループ会社やM&Aした企業を含めた出願人の独自コードを提供しているものもある
- 企業リストは、蓄積している書誌情報を基に作成しているものや、市中の企業リストを組み込んで提供しているものもある

特許自動生成機能

- 発明の概要を入力すると、明細書のドラフトを作成するが、現状では完全な明細書を作成することはできない
- ただし、弁理士への相談の文案や知財部門と開発部門のコミュニケーション等に活用するのは有効
- 生成したドラフトを基に類似特許検索を行い、類似率を基に発明の内容を修正やアイデアの追加などを繰り返すことで、新規性を高めることができる
- 特許自動生成機能は、現状では、自動で特許を作る機能ではなく、ユーザーをサポートする機能として提供されている